

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1473701470
法人名	株式会社 サンライフ
事業所名	グループホーム サンライフ青葉
訪問調査日	平成21年4月1日
評価確定日	平成21年4月15日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	1473701470
法人名	株式会社 サンライフ
事業所名	グループホーム サンライフ青葉
所在地	227-0032 横浜市青葉区成合町443-2 (電話) 045-960-0320

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8 SYビル2F		
訪問調査日	平成21年4月1日	評価確定日	平成21年4月15日

【情報提供票より】(平成21年3月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 18年 3月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	29 人	常勤 5 人, 非常勤 24 人, 常勤換算 8.9 人	

(2) 建物概要

建物構造	コンクリート系組立て造り
	2階建ての 1階 ~ 2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	35,000 円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	400 円	昼食	400 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1500 円			

(4) 利用者の概要(3月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	名	女性	18 名
要介護1	5 名	要介護2	6 名		
要介護3	4 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	名		
年齢	平均 81 歳	最低	70 歳	最高	91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	やまびこクリニック、地挽歯科医院
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは田園都市線青葉台駅からバスで10分位の新興住宅地の中にあり、近くに進学校で有名な桐蔭学園や寺家ふるさと村があり、川が流れ、周囲の畑や果樹園などが田園地帯の名残を残している。この経営は㈱サンライフで、川崎市の宮前平に設立された有料老人ホームからスタートし、横須賀市三春町にグループホームとデイサービスに併設施設を、そして3番目にこのサンライフ青葉を展開している。企業理念として「Sunshine of Life・太陽の様なあかるい生活」をコンセプトにし、それに沿ってグループホームが地域性等も考慮に入れ、平易なフレーズで、「すべての利用者様が楽しく安全で安心した時間をすごせるようスタッフ全員で努力する」と云うもので、利用者を中心に据えたケアに重点を置いている。食事は手作りを原則とし、入居者と一緒に買い物に行き、メニューを決めながら美味しい食事の提供に努めている。介護計画については、日常記録と介護計画を一体化した新介護計画書を検討中である。サービスの目標を定める場合、現場スタッフに現状や今後取り組んでいきたいことを聞き、それに基づいてモニタリングし、新しい計画書を作成している。それに対しご家族のご意見を頂き、現場に活かしている。今回の取組みは介護計画と日常記録が同じシートに書けて、見ながら介護し、気づきや変化を書き込み、次期目標に反映出来ること併せて職員のレベルアップも図って行きたい。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回、管理者が交代して1年間取り組んできたことは、職員が自由な発想を持って業務を推進してくれることである。職員の採用については特に募集資格を定めなかったこともあり、無資格、未経験の方もあり、これを有効に利用して、介護のベテランでは思いつかない発想を伸ばすことでホーム運営に新風を取り入れていくことを狙いの1つとした。イベント、日頃のケア、記録の使い勝手などに関して、自由に、積極的に意見を出してもらい、新たな視点での介護を推進してもらおうべく指導している。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>要員の不足があり、体制を固めるために前述のような無資格、未経験を含めた職員を採用、これら新職員に対してレベルの維持・向上の為ミーティングを定着、強化し、今回のように外部からも見られることも意識させ、書式や体制等の変更の1つのタイミングとして外部評価を活用し改善に取り組んでいる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は第1回目を平成19年11月に開催し、メンバーを市に登録した時以降、少し間が開いてしまった。(管理者の変更が何回か続いた) 初期のメンバーには変動があり、今後は民生委員の方をお願いして、民生委員を中心とした運営推進会議の再構築を進める考えで、先般、堅苦しい運営推進会議の形式ではなく、節分の会に併設の形で発足の会を行った。メンバーは民生委員、地域の方(のどか村で交流のある方)、ご家族、ホーム長、ケアマネジャーで実施した。自治会の実態が掴めない状況にあるので今後は地域代表として近隣の方の参加を検討して行く。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>介護についてはご家族、ホームと一緒に方向性を考え、いろいろな形でご家族の協力をお願いして来た。それらは①介護計画への協力、②家族温泉旅行などご家族と一体となった外出イベントなどの計画、実施。③日常を撮影した写真のラミネートしたもののお渡しなどご家族と一緒に活動し、話し合える体制を作りつつある。請求書発送時にはお手紙と写真のラミネートしたものを添えてお届けしている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>運営推進会議でもお世話になる予定の鴨志田地域ケアプラザでは地域参加型の「のどか村」を行っており(昼食代のみ必要)、利用者数名が参加している。ボランティアの方はハーモニカ、ハンドベル、手品、茶道など協力してくれている。保育園等は近くにないが、職員の子どもが仲間数人を連れて遊びに来ている。大家さんご自身でも農地や体験農場をお持ちで、庭の家庭菜園についてもご指導を受け、毎年、大きな収穫が出来、入居者さんも収穫を楽しみにしている。横浜市グループホーム連絡会の支部会にも参加している。</p>
重点項目④	

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「太陽のような明るい生活」のコンセプトの元、日常のあらゆる場面で安全、安心の基本概念の上にご利用者の意思決定の場を設ける様に取り組んでいる。新人研修や社員教育プログラムを構築し、意味を理解した上でのサービス提供に取り組みよう計画して行く。		今後も継続して実施して行く。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	安全、安心の基本概念及び意思決定の場を設ける事は出来ている。新人研修や社員教育プログラムを構築し、意味を理解した上でのサービス提供に取り組みよう計画して行く。	○	今後も継続して実施して行く。
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議でもお世話になる予定の鴨志田地域ケアプラザでは無料のミニデイ「のどか村」を行っており(昼食代のみ必要)、利用者襲名が参加し、入居者様と外部の方の接する機会を設けている。大家さんにご自分でも農地や体験農場をお持ちで、庭の家庭菜園についてもご指導を受け、毎年、大きな収穫が出来、入居者さんも収穫を楽しみにしている。		今後も継続して実施して行く。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	新しい発想を持ったサービスを提供するために、無資格、未経験を含めた職員を採用、これら新職員に対してレベルの維持・向上の為ミーティングを定着、強化し、今回のように外部からも見られることも意識させ、書式や体制等の変更の1つのタイミングとして外部評価を活用し改善に取り組んでいる。	○	新職員に対してレベルの維持・向上の為ミーティングを定着、強化を図って行く。
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は第1回目を平成19年11月に開催し、メンバーを市に登録した時以降、少し間が開いてしまった。(管理者の変更が何回か続いた) 初期のメンバーには変動があり、今後は民生委員の方をお願いして、運営推進会議の再構築を進める考えで、先般、堅苦しい運営推進会議の形式ではなく、節分の会に併設の形で発足の会を行った。	○	民生委員を中心とした運営推進会議の再構築を進めて行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の運営指針や法規等に不安がある場合には横浜市福祉局高齢健康福祉課や青葉区へ電話して問い合わせを行っている。		今後も継続して実施して行く。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	介護についてはご家族、ホームが一緒に行う方向性を考え、いろいろな形でご家族の協力をお願いして来た。それらは①介護計画への協力、②家族温泉旅行などご家族と一体となった外出イベントなどの計画、実施。③日常を撮影した写真のラミネートしたもののお渡しなどご家族と一緒に活動し、話し合える体制を作りつつある。	○	介護についてはご家族、ホームが一緒に活動し、話し合える体制を作りを進めて行く。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書では苦情受付機関をご照会している。個別での意見は来訪時やお電話で何うようにしているが家族会の開催実績はまだ無い。		今後も継続して実施して行く。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	無資格、未経験を含めた職員を採用することで、介護のベテランでは思いつかない発想を伸ばし、ホーム運営に新風を取り入れていくことを狙い、OJT計画で今職員が望んでいる事を中心に構築して行きたい。	○	イベント、日頃のケア、記録の使い勝手などに関して、自由に、積極的に意見を出してもらい、新たな視点での介護を推進してもらおう。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新しい発想を持ったサービスを提供するために、無資格、未経験を含めた職員を採用したので、介護のベテランでは思いつかない発想を伸ばすことでホーム運営に新風を取り入れていくことを狙い、OJT計画で今職員が望んでいる事を中心に構築して行きたい。	○	イベント、日頃のケア、記録の使い勝手などに関して、自由に、積極的に意見を出してもらい、新たな視点での介護を推進してもらおう。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	19年度には他施設との交換研修を行ったが、20年度は実施出来なかった。交換研修で得た考えや知識を共有出来る場が設けられていないので、今後人員配置が整理されたら社内でも共有出来る場を設けて行く。	○	21年度には交換研修に取組み、スタッフの視野を広げ、自ホームのサービス向上に結びつけて行きたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居が前提で、他の入居者との交流を主とした体験入居を行い、その間の利用者の状態やサービス提供の内容を踏まえ再度家族と相談する機会を設け、正式な入居を決めている。		今後も継続して実施して行く。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活時間内において家事を共同で行っている。利用者の生活背景をご家族に記入して頂き、職員間で情報を共有することでケアに活かしている。職員に理解出来るようにカンファレンス等で検討もしている。		今後も継続して実施して行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にケアマネージャー等から利用者個別にヒアリングを行っている。全員で思いや意向の把握に努めて行く。		今後も継続して実施して行く。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画については、日常記録と介護計画を一体化した新介護計画書を検閲中である。サービスの目標を定める場合、現場スタッフに現状や今後取り組んでいきたいことを聞き、それを基にしてモニタリングし、新しい計画書を作成している。それに対しご家族のご意見を頂き、現場に活かしている。	○	今回の取組みは介護計画と日常記録が同じシートに書いて、見ながら介護し、気付きや変化を書き込み、次期目標に反映出来ることと併せて職員のレベルアップも図って行く。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画と日常記録が同じシートに書き込めることにより、見ながら介護し、気付きや変化を随時書き込み、見直し効果が出せるとともに、プランとケアが連動出来るようにして行きたい。	○	前項と併せて実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご要望に柔軟に対応するようにしている。入居が前提で、他の入居者との交流を主とした体験入居を行い、その間の利用者の状態やサービス提供の内容を踏まえ再度家族と相談する機会を設け、正式な入居を決めている。		今後も継続して実施して行く。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にホームに往診に来ている協力医療機関での受診を薦めているが、主治医の継続も自由にして頂いている。		今後も継続して実施して行く。
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	会社では現時点で医療連携体制は取らない方向であり、医療加護が必要となった場合には医師、ご家族と3者で話し合い、方向付けして行くことにしている。		今後も継続して実施して行く。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録は基本的に事務所にて管理し利用者の手が届かないように配慮している。		今後も継続して実施して行く。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員配置の現状もあり食事の提供開始時間は決まっている。それを基準に一日の流れを構築している。食事以外の時間の過ごし方は要望があれば対応するようにしている。		今後も継続して実施して行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。		今後も継続して実施して行く。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	土日は家族の来訪も多いので平日でのお誘いが多いのが現状、職員配置も日中が多いのでその間でのおさそいをしている。		今後も継続して実施して行く。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ADLや認知症の状態に応じ調理や掃除、洗濯等の日常の家事に参加できるように声掛けを行っている。		今後も継続して実施して行く。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。		今後も継続して実施して行く。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	必要に応じた個別対応があるので、玄関及び玄関に通じるドアのみ常時施錠をしている。		玄関及び玄関に通じるドアの常時施錠に関してはご家族のご理解を得ている。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	緊急マニュアルに基づいた社内研修を行っている。	○	運営推進会議との連携を図って行く。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	禁止食、個々の好き嫌いを把握して代替品を提供したり、食事量が低下傾向にある場合は協力医療機関を通し栄養補助食品を処方して対応している。		今後も継続して実施して行く。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関では季節を連想できる物を配置するようにしている。		今後も継続して実施して行く。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は全て家族に持込を依頼している。		今後も継続して実施して行く。

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム サンライフ青葉
(ユニット名)	1F
所在地 (県・市町村名)	227-0032 青葉区成合町443-2
記入者名 (管理者)	小野 敦弘
記入日	平成21年3月2日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「太陽のような明るい生活」のコンセプトの元、日常のあらゆる場面で安全、安心の基本概念の上にご利用者さまの意思決定の場を設ける様に取り組んでいる	○	新人研修や社員教育プログラムを構築し意味を理解した上でのサービス提供に取り組めるようにしていきたい
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	安全、安心の基本概念及び意思決定の場を設ける事は出来ている	○	新人研修や社員教育プログラムを構築し意味を理解した上でのサービス提供に取り組めるようにしていきたい
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にされた理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	季節行事には全家族に参加を促して参加されている家族には理念を理解できていると思われる		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	実施できていない	○	自治会の加入を目指し、より近隣地域との交流を図って行きたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	鴨志田地域ケアプラザにて開催されている行事等に定期的に参加し入居者様と外部の方の接する機会を設けている	○	自治会の加入を目指し、より近隣地域との交流を図って行きたい
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実施できていない	○	自治会の加入を目指し、より近隣地域との交流を図って行きたい
---	--	----------	---	-------------------------------

3. 理念を実践するための制度の理解と活用

7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	平成20年3月より社内人事によりホーム長、管理者の変更となり今回の外部評価が始めての対応となる	○	現時点でのサンライフ青葉の実態を正直に公開し、是正すべき点改善すべき点を見出す事により今後の課題とし新体制での方向性を決定して行きたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年11月に行っているが以降は実施できていない	○	今後青葉区との連携を密に行い2ヶ月に1度の開催を実施できる様に取り組み地域や家族との関係を向上させて行きたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の運営指針や法規等に不安がある場合には横浜市福祉局高齢健康福祉課へ電話して問い合わせを行っている		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	出来ていない	○	今後運営推進会議等で情報収集を行い、ミーティング等で職員に周知して行きたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	出来ていない	○	今後運営推進会議等で情報収集を行い、ミーティング等で職員に周知して行きたい

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
----	---------------------------------	------	----------------------------------

4. 理念を実践するための体制

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新体制での実績がない	○	契約書・運営規定・重要事項説明書等の読み合わせは当然として、グループホームでの生活が最後にならない可能性も含めご理解頂けるようにして行きたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部への申し立てができる手段は確立されていない		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用料の請求書と同封にて家族レター（前月のご様子やお写真）を送付している		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時やお電話にてのご要望等は受け付けているが、重要事項説明書に記載している苦情受付機関を利用されているかは不明。 個別での意見は来訪時に伺っているが家族会の開催実績がまだ無い	○	家族会を開催して意見交換やご要望を聞き取れる機会を設けて行きたい
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常勤職員よりパート職員の割合が高く各職員の意見交換の場があまり無い為に個々の職員の問題意識が集約出来ない事がある	○	常勤職員の雇用を進めて定期的に意見交換が出来る場を設けて行きたい
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	あまり出来ていない。日々の変化に着いての対応は連絡ノートや業務日報にて行っている。	○	常勤職員の雇用を進めて定期的に意見交換が出来る場を設けて行きたい
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や退職等の人員異動は少ないが、パート職員の割合が高い為利用者と職員が馴染みの関係になっているのは少ないと思われる	○	常勤職員の雇用を進め、極力固定した人員配置でサービス提供を行って行きたい
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	あまり出来ていない。	○	OJT計画も今職員が望んでいる事を中心に構築して行きたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交換研修を行っている	○	交換研修で得た考えや知識を共有出来る場が設けられていないので、今後人員配置が整理されたら社内で共有できる場を設けて行きたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	あまり出来ていない	○	個別面談等を実施して行く予定、個々の不満や要望を聞き出して集約し取り組んで行きたい
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	あまり出来ていない、シフトにおける勤務実績のみ把握出来ていて個々の努力や問題の取り組みには把握出来ていない	○	ミーティング等でコミュニケーションを図る機会を多く設け、その中で自己評価や運営者は職員を評価し、職員が運営者を評価できるように取り組んで行きたい

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	環境の変化による不安や他の利用者との人間関係が手探りの状態で職員はとにかくコミュニケーションを取るように心がけ、不安からくる不穏行動や表情の変化に気付く様心がけている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	新体制での実績がない	○	入居問い合わせの担当者を決定し家族が困っている内容を伺えるようにしたい
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新体制での実績がない	○	アセスメントの内容を再構築しADL以外の生活背景や現在の家族の精神状態、認知症からくるいわゆる問題行動について把握出来るようにしたい、その上でグループホームの利用が適正か判断して行きたい

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新体制での実績がない	○	他の入居者との交流を主とした体験入居を行い、その間の利用者の状態やサービス提供の内容を踏まえ再度家族と相談する機会を設け本サービスの提供を行いたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活時間内において家事を共同で行っている	○	利用者の生活背景を職員に理解出来るようにカンファレンス等を行って行きたい
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来訪も多く、行事にも参加頂ける機会も多いので職員と接する場面が多く良好な関係を築けていると思う		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事の参加を全家族に伺い極力ご参加頂ける様声掛けしている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族以外の来訪を制限せず		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	リビングの座席を職員が人間関係等を考慮し決めてはいる		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	実施したことはないが、退去された後に相談を受ければ協力していききたいと思う		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にケアマネージャーから利用者個別にヒアリングを行っている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前アセスメントにて聞き取りを行っている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人記録を活用し日々の変化に気付けるようにしている		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の暮らしやご家族の要望、利用者のADL、精神状況を考慮した介護計画書を作成し家族の承認を受けている	○	職員の配置が整い次第チームケアを行える為のカンファレンスの時間を設定し、介護計画書の作成に参加できるようにしていきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	記録等を参考に介護計画書内容の継続もしくは新たな目標を作成し家族の承認を受けている	○	職員の配置が整い次第チームケアを行える為のカンファレンスの時間を設定し、介護計画書に対する見直しや新たな目標の設定づくりに参加できるようにしていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、日々の個別記録の記入を通して変化に気づき介護計画書の見直しに利用している		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多 機能性を活かした柔軟な支 援をしている	ご要望に柔軟に対応できている	
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、 民生委員やボランティア、警 察、消防、文化・教育機関等 と協力しながら支援している	実施していないが利用者から 要望があれば対応して行きた い	
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、 地域の他のケアマネジャーや サービス事業者と話し合い、 他のサービスを利用するた めの支援をしている	実施していないが利用者から 要望があれば対応して行きた い	
42	○地域包括支援センターとの 協働 本人の意向や必要性に応じて、 権利擁護や総合的かつ長 期的なケアマネジメント等につ いて、地域包括支援センター と協働している	実施していないが利用者から 要望があれば対応して行きた い	
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切 にし、納得が得られたかか りつけ医と事業所の関係を 築きながら、適切な医療を 受けられるように支援して いる	基本的にホームに往診に 来ている協力医療機関での 受診を薦めている	
項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		(○印) 取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師 と関係を築きながら、職員が 相談したり、利用者が認知 症に関する診断や治療を受 けられるよう支援している	精神科の医師と連携を取 っていて、必要に応じ受診、 薬の処方をして頂いている	
	○看護職との協働		

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員で看護師が勤務しているので、日常の健康管理や緊急時の対応、指示などをおこなっている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関に入院設備が併設されているので、情報交換の頻度は多く退院後の受け入れ体制もスムーズに整えられている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	あまり出来ていない	○	今後家族会を通して個別の方針を確認し職員で共有して行きたい
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	実施していない	○	サンライフ青葉で出来る事、出来ないことを職員で統一して現在利用されている利用者の状態が変化してきた時にも柔軟に対応できる仕組み作りに取り組んで行きたい
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	協力医療機関、ケアマネージャーに退去に関わる状況を伝え必要なサービス提供が受けることが出来る事業所を速やかに検索できるよう対応している		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録は基本的に事務所にて管理し利用者の手が届かないように配慮している		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	実施している		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日どのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員配置の現状もあり食事の提供開始時間は決まっていますが、それを基準に一日の流れが来ています。食事以外の時間の過ごし方は要望があれば対応しています		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	近郊の理容室に行っています。個別の理容室には行っていません		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	実施しています		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつの内容は全員合わせた形での提供です。タバコに関しては希望時に提供しています		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意便意が曖昧な方は日中リハビリパンツを使用していますが、表情やしぐさでのトイレ誘導や時間でのトイレ誘導を行っています		
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	土日は家族の来訪も多いので平日でのお誘いが多いのが現状、職員配置も日中が多いのでその間でのおさそいをしています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	特に消灯時間等は設けておらず表情を見てベットへ誘導しています日中も軽眠程度ならそのまま昼夜逆転になるようであれば気分転換出来るよう声掛けしています		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ADLや認知症の状態に応じ調理や掃除、洗濯等の日常の家事に参加できるように声掛けを行っています		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	他の方とのトラブルを避ける為、基本的に日常で使用する現金は持たないように入居時に家族に通達しています。個人消耗品等は希望の品物を選んで購入でき代金は立替することを利用者にはつたえています		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	実施している		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族を伴った箱根旅行等イベントを実施している		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望により対応している、但し帰宅願望に起因する場合の内容の場合は職員がその内容をお伺いし安心できるように対応している		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	情報提供の項目等で定める面会時間外でも面会は可能である。外出等で不在時に訪問されることの無い様極力事前にご連絡頂けるようお願いしてある		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が禁止の対象となる身体拘束の内容を理解できていない。現在1名夜間時のみベット4点柵を使用している	○	法令指導と安全の維持についてカンファレンス等で方向を決めていきたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	必要に応じた個別対応があるので玄関及び玄関に通じるドアのみ常時施錠をしているので鍵をかけないケアの実践は出来ていない	○	玄関及び玄関に通じるドアの常時施錠に関しては家族会等を通じご理解頂けるようにしていきたい
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビング以外での行動や所在は常に把握出来ている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	誤飲の恐れがある洗剤等は施錠管理を行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書での情報の共有を行っている	○	再発防止策の取り組みを強化していきたい
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	出来ていない	○	緊急マニュアルに基づいた社内研修を行って行きたい。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	あまり出来ていない	○	緊急マニュアルに基づいた社内研修を行って行きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	現病における日常生活のリスクは説明している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個人記録や連絡ノートにて対応できている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	あまり出来ていない	○	既往歴や処方内容を周知できるようにカンファレンス等を実施して行きたい
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	実施できていない	○	個々の排便のサイクルを把握出来るようしていきたい、また無排便日数に応じた運動や必要に応じた下剤の処方もして行きたい
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食を口腔ケアを実施している		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	禁忌食、個々の好き嫌いを把握して代替品を提供したり、食事量が低下傾向にある場合は協力医療機関を通し栄養補助食品を処方して対応している		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出から帰ホーム時の手洗いうがいは徹底している。また予防接種も行っている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や配膳時のお盆等は毎回アルコール消毒を実施している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	開設以来特に取り組んでいない	○	家族会等でご要望があれば取り組んでいきたい
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関では季節を連想できる物を配置するようにしている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる空間は無いが、リビングでの座席は人間関係を職員が判断し気の合う方同士で過ごせるように配慮している		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は全て家族に持込を依頼している		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>毎朝の全居室の換気、台所の換気、排泄の介助終了時には行っている。エアコンによる温度調節はエアコンの風が直接あたらないように居室内の配置を行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下やトイレ内に手すりを設け自立歩行の援助やエレベータの設置で2階の方も外出できる機会を多く出来る様になっている</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>表札やアクセサリにて御自分のお部屋の位置が把握できたり、見やすい大きさのトイレ案内を行っている</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>春から秋にかけては敷地内の家庭菜園にて栽培、収穫を行っている また夏には庭でのバーベキュー会を催した</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かして下さい。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的に客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム サンライフ青葉
(ユニット名)	2F
所在地 (県・市町村名)	227-0032 青葉区成合町443-2
記入者名 (管理者)	小野 敦弘
記入日	平成21年3月2日

地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑ 取り組んでいきたい項目

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「太陽のような明るい生活」のコンセプトの元、日常のあらゆる場面で安全、安心の基本概念の上にご利用者さまの意思決定の場を設ける様に取り組んでいる	○	新人研修や社員教育プログラムを構築し意味を理解した上でのサービス提供に取り組めるようにしていきたい
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	安全、安心の基本概念及び意思決定の場を設ける事は出来ている	○	新人研修や社員教育プログラムを構築し意味を理解した上でのサービス提供に取り組めるようにしていきたい
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	季節行事には全家族に参加を促して参加されている家族には理念を理解できていると思われる		
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	実施できていない	○	自治会の加入を目指し、より近隣地域との交流を図って行きたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	鴨志田地域ケアプラザにて開催されている行事等に定期的に参加し入居者様と外部の方の接する機会を設けている	○	自治会の加入を目指し、より近隣地域との交流を図って行きたい
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)

6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	実施できていない	○	自治会の加入を目指し、より近隣地域との交流を図って行きたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	平成20年3月より社内人事によりホーム長、管理者の変更となり今回の外部評価が始めての対応となる	○	現時点でのサンライフ青葉の実態を正直に公開し、是正すべき点改善すべき点を見出す事により今後の課題とし新体制での方向性を決定して行きたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年11月に行っているが以降は実施できていない	○	今後青葉区との連携を密に行い2ヶ月に1度の開催を実施できる様に取り組み地域や家族との関係を向上させて行きたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の運営指針や法規等に不安がある場合には横浜市福祉局高齢健康福祉課へ電話して問い合わせを行っている		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	出来ていない	○	今後運営推進会議等で情報収集を行い、ミーティング等で職員に周知して行きたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	出来ていない	○	今後運営推進会議等で情報収集を行い、ミーティング等で職員に周知して行きたい
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				

12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	新体制での実績がない	○	契約書・運営規定・重要事項説明書等の読み合わせは当然として、グループホームでの生活が最後にならない可能性も含めご理解頂けるようにして行きたい。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部への申し立てができる手段は確立されていない		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月利用料の請求書と同封にて家族レター(前月のご様子やお写真)を送付している		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時やお電話にてのご要望等は受け付けているが、重要事項説明書に記載している苦情受付機関を利用されているかは不明。 個別での意見は来訪時に伺っているが家族会の開催実績がまだ無い	○	家族会を開催して意見交換やご要望を聞き取れる機会を設けて行きたい
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常勤職員よりパート職員の割合が高く各職員の意見交換の場があまり無い為に個々の職員の問題意識が集約出来ない事がある	○	常勤職員の雇用を進めて定期的に意見交換が出来る場を設けて行きたい
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	あまり出来ていない。日々の変化に着いての対応は連絡ノートや業務日報にて行っている。	○	常勤職員の雇用を進めて定期的に意見交換が出来る場を設けて行きたい
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や退職等の人員異動は少ないが、パート職員の割合が高い為利用者と職員が馴染みの関係になっているのは少ないと思われる	○	常勤職員の雇用を進め、極力固定した人員配置でサービス提供を行って行きたい
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
	○職員を育てる取り組み			

19	運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	あまり出来ていない。	○	OJT計画も今職員が望んでいる事を中心に構築して行きたい
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交換研修を行っている	○	交換研修で得た考えや知識を共有出来る場が設けられていないので、今後人員配置が整理されたら社内で共有できる場を設けて行きたい
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	あまり出来ていない	○	個別面談等を実施して行く予定、個々の不満や要望を聞き出して集約し取り組んで行きたい
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	あまり出来ていない、シフトにおける勤務実績のみ把握出来ていて個々の努力や問題の取り組みには把握出来ていない	○	ミーティング等でコミュニケーションを図る機会を多く設け、その中で自己評価や運営者は職員を評価し、職員が運営者を評価できるように取り組んで行きたい

II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援

1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応

23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	環境の変化による不安や他の利用者との人間関係が手探りの状態で職員はとにかくコミュニケーションを取るように心がけ、不安からくる不穏行動や表情の変化に気付く様心がけている		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	新体制での実績がない	○	入居問い合わせの担当者を決定し家族が困っている内容を伺えるようにしたい
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	新体制での実績がない	○	アセスメントの内容を再構築しADL以外の生活背景や現在の家族の精神状態、認知症からくるいわゆる問題行動について把握出来るようにしたい、その上でグループホームの利用が適正か判断して行きたい

26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐徐に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	新体制での実績がない	○	他の入居者との交流を主とした体験入居を行い、その間の利用者の状態やサービス提供の内容を踏まえ再度家族と相談する機会を設け本サービスの提供を行いたい
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常生活時間内において家事を共同で行っている	○	利用者の生活背景を職員に理解出来るようにカンファレンス等を行って行きたい
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の来訪も多く、行事にも参加頂ける機会も多いので職員と接する場面が多く良好な関係を築けていると思う		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	行事の参加を全家族に伺い極力ご参加頂ける様声掛けしている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親族以外の来訪を制限せず		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	リビングの座席を職員が人間関係等を考慮し決めてはいる		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	実施したことはないが、退去された後に相談を受ければ協力していききたいと思う		

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的にケアマネージャーから利用者個別にヒアリングを行っている		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前アセスメントにて聞き取りを行っている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人記録を活用し日々の変化に気付けるようにしている		

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日々の暮らしやご家族の要望、利用者のADL、精神状況を考慮した介護計画書を作成し家族の承認を受けている	○	職員の配置が整い次第チームケアを行える為のカンファレンスの時間を設定し、介護計画書の作成に参加できるようにしていきたい
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	記録等を参考に介護計画書内容の継続もしくは新たな目標を作成し家族の承認を受けている	○	職員の配置が整い次第チームケアを行える為のカンファレンスの時間を設定し、介護計画書に対する見直しや新たな目標の設定づくりに参加できるようにしていきたい

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌、日々の個別記録の記入を通して変化に気づき介護計画書の見直しに利用している		

3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々 の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	ご要望に柔軟に対応できている		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	実施していないが利用者から要望があれば対応して行きたい		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	実施していないが利用者から要望があれば対応して行きたい		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	実施していないが利用者から要望があれば対応して行きたい		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本的にホームに往診に来ている協力医療機関での受診を薦めている		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科の医師と連携を取っていて、必要に応じ受診、薬の処方をして頂いている		
	○看護職との協働			

45	利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	職員で看護師が勤務しているため、日常の健康管理や緊急時の対応、指示などをおこなっている		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	協力医療機関に入院設備が併設されているので、情報交換の頻度は多く退院後の受け入れ体制もスムーズに整えられている		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	あまり出来ていない	○	今後家族会を通して個別の方針を確認し職員で共有して行きたい
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	実施していない	○	サンライフ青葉で出来る事、出来ないことを職員で統一して現在利用されている利用者の状態が変化してきた時にも柔軟に対応できる仕組み作りに取り組んで行きたい
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	協力医療機関、ケアマネージャーに退去に関わる状況を伝え必要なサービス提供が受けることが出来る事業所を速やかに検索できるよう対応している		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
	○プライバシーの確保の徹底			

50	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録は基本的に事務所にて管理し利用者の手が届かないように配慮している		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	実施している		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日どのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員配置の現状もあり食事の提供開始時間は決まっていますが、それを基準に一日の流れが来ています。食事以外の時間の過ごし方は要望があれば対応しています		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	近郊の理容室に行っています。個別の理容室には行っていません		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	実施しています		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつの内容は全員合わせた形での提供です。タバコに関しては希望時に提供しています		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意便意が曖昧な方は日中リハビリパンツを使用していますが、表情やしぐさでのトイレ誘導や時間でのトイレ誘導を行っています		
	○入浴を楽しむことができる支援			

57	曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	土日は家族の来訪も多いので平日でのお誘いが多いのが現状、職員配置も日中が多いのでその間でのおさそいをしています。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	特に消灯時間等は設けておらず表情を見てベットへ誘導しています日中も軽眠程度ならそのまま昼夜逆転になるようであれば気分転換出来るよう声掛けしています		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ADLや認知症の状態に応じ調理や掃除、洗濯等の日常の家事に参加できるように声掛けを行っています		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	他の方とのトラブルを避ける為、基本的に日常で使用する現金は持たないように入居時に家族に通達しています。個人消耗品等は希望の品物を選んで購入でき代金は立替することを利用者にはつたえています		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	実施している		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族を伴った箱根旅行等イベントを実施している		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の要望により対応している、但し帰宅願望に起因する場合の内容の場合は職員がその内容をお伺いし安心できるように対応している		
	○家族や馴染みの人の訪問支援			

64	家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	情報提供の項目等で定める面会時間外でも面会は可能である。外出等で不在時に訪問されることの無い様極力事前にご連絡頂けるようお願いしてある		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全ての職員が禁止の対象となる身体拘束の内容を理解できていない。現在1名夜間時のみベット4点柵を使用している	○	法令指導と安全の維持についてカンファレンス等で方向を決めていきたい
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	必要に応じた個別対応があるので玄関及び玄関に通じるドアのみ常時施錠をしているので鍵をかけないケアの実践は出来ていない	○	玄関及び玄関に通じるドアの常時施錠に関しては家族会等を通じご理解頂けるようにしていきたい
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	リビング以外での行動や所在は常に把握出来ている		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	誤飲の恐れがある洗剤等は施錠管理を行っている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故報告書での情報の共有を行っている	○	再発防止策の取り組みを強化していきたい
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	出来ていない	○	緊急マニュアルに基づいた社内研修を行って行きたい。
	○災害対策			

71	火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	あまり出来ていない	○	緊急マニュアルに基づいた社内研修を行って行きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	現病における日常生活のリスクは説明している		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	個人記録や連絡ノートにて対応できている		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	あまり出来ていない	○	既往歴や処方内容を周知できるようにカンファレンス等を実施して行きたい
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	実施できていない	○	個々の排便のサイクルを把握出来るようしていきたい、また無排便日数に応じた運動や必要に応じた下剤の処方もして行きたい
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食を口腔ケアを実施している		
項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	禁忌食、個々の好き嫌いを把握して代替品を提供したり、食事量が低下傾向にある場合は協力医療機関を通し栄養補助食品を処方して対応している		
	○感染症予防			

78	感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	外出から帰ホーム時の手洗いうがいは徹底している。また予防接種も行っている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	まな板や配膳時のお盆等は毎回アルコール消毒を実施している		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	開設以来特に取り組んでいない	○	家族会等でご要望があれば取り組んでいきたい
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関では季節を連想できる物を配置するようにしている		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	一人になれる空間は無いが、リビングでの座席は人間関係を職員が判断し気の合う方同士で過ごせるように配慮している		
項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は全て家族に持込を依頼している		
	○換気・空調の配慮			

84	<p>気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>	<p>毎朝の全居室の換気、台所の換気、排泄の介助終了時には行っている。エアコンによる温度調節はエアコンの風が直接あたらないように居室内の配置を行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>廊下やトイレ内に手すりを設け自立歩行の援助やエレベータの設置で2階の方も外出できる機会を多く出来る様になっている</p>		
86	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>	<p>表札やアクセサリにて御自分のお部屋の位置が把握できたり、見やすい大きさのトイレ案内を行っている</p>		
87	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>	<p>春から秋にかけては敷地内の家庭菜園にて栽培、収穫を行っている また夏には庭でのバーベキュー会を催した</p>		

V. サービスの成果に関する項目

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)